



### ゾウと飼育の関係

先日、かみね動物園を訪れた方からメールをいただきました。内容は子どもと一緒にゾウの餌やりを体験させてもらっていたときのことで、始めは飼育員に誘導されとても喜んで餌をあげていたのですが、ゾウが飼育員の体をまさぐった瞬間、その飼育員はそれまでの優しい態度を一変させ突然ゾウの鼻を叩きその光景がとても恐ろしかった、どうか動物に悲しい思いをさせないで下さい、というものでした。

このメールだけでなく時々このようなお話を頂く事があります。それは餌やり体験だけではなく普段の調教の場面を見ていて感じられる方がいるようです。

まず分かっていたきたいのは私たちは決して動物をいじめているのではないという事です。確かにその瞬間だけ切り取ってみれば動物を攻撃しているように見えるのかもしれませんが。しかしそれは毎日毎日の調教の流れの中の一環に過ぎません。

ゾウの飼育には大きく分けて二つの飼育方法があります。ひとつめは直接飼育といい、飼育員がゾウと直接対面して健康状態や体の手入れをしながら飼育する方法です。毎日のゾウとのふれあいの中で確固たる信頼関係が築かれていきます。反対に飼育員がゾウとまったく触れ合わずに飼育する方法を間接飼育といいます。飼育員の安全性を最優先にする飼育方法です。直接触れ合わないため飼育員との信頼関係という点では直接飼育よりは劣るでしょう。

かみね動物園ではこのコラムの最初にも書きましたが直接飼育で飼育しています。それは間接飼育ができるような獣舎の構造になっていないこともありますが、何よりも日々人間とゾウが触れ合うことによって得られる信頼関係がゾウにとってもよい事だと考えているからです。彼らは本当に賢い動物です。タイの山奥やゾウキャンプでは人間とゾウが一緒になって仕事をし生活をしています。人馬一体という言葉はそのままゾウにも当てはまります。動物園のゾウも突然人間社会に送り込まれた以上まったく人間とかかわらずに生活するよりも直接触れ合うほうが幸せなのではないでしょうか。そのためにはゾウと人間の間でルール作りをしなければなりません。それが調教なのです。今度動物園に来る機会があったら朝9時過ぎか13時過ぎごろに来てみてください。飼育員がゾウと歩きゾウを寝かせゾウの足を上げさせといった光景に出会えるはずですよ。これらは皆健康状態の確認や体調管理の一環としてやっているのです。そのなかで飼育員の指示にうまく従えばほめ、従わないときは厳しく怒ります。そうすることによって飼育員との信頼関係を築いていくのです。特に日本の動物園では、タイと違って飼育員はみな始めてゾウと接するごく普通の人たちです。ゾウにとっては悪いことをした訳ではなくとも4トンから5トンもある陸上最大の生物に不幸にして命を落とされた方が多くいるのも事実です。そのために時には厳しくする事も必要になってきます。

ゾウとお客さんが触れ合える餌やり体験は、少しでもゾウを間近で観察しその巨体に感動してもらいたくておこなっています。しかし、その中で事故があってはならないのです。冒頭のメールの内容はたまたまゾウが飼育員の指示する行動以外のことをしたため叱責したのだと思います。ゾウにとっては悪さではないかもしれませんが飼育員との間に作られた関係ではルール違反だったのです。そして飼育員にはお客様を守るというルールもあるのです。小さいお子さんにとってはゾウはやはり「ゾウさん」のイメージがあり、そうした中で人間とゾウとの現実の関係を突然目の当たりにし驚かれたのだと思います。しかし、どうかお父

さんお母さんがた、そういう光景に出くわしたときは大人の冷静な目で判断し、飼育員は決して動物をいじめているのではないということだけは教えてあげてください。

平成20年11月28日 園長 生江信孝



子ども達に人気の餌やり体験



長い鼻でニョキッと



調教中のゾウと健康観察

2008年11月28日

---

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)